

『果物屋の広告文』

仲村渠 作

今晚は、みなさん。

とりわけ果実をお好きな御婦人がたに申し上げるのでございます。

手前のからだは今夜果物店をひろげたのでございます。この真夜中に瓦斯燈ひとつ点けずとも はい この通り手前どもの果実は艶艶と光沢がよいのでございます。

さあさあ、なんなりと一ツ、

このすばらしい朱欒の出来はどうでございます。この頸かざりにした紫真珠。葡萄はいかがでございます。

雪国のお方様にはこのまだほてつてゐるバナナの房がよろしうございます。

南の方のおかたにはこの涼しい一顆の梨をさしあげるでございます。

特に故郷いなかを恋しがつてゐらつしやるお方にはここに蒸立ての栗も用意してございます。

大輪の柘榴も割れたばかり夜露に濡れて笑つてゐるのでございます。

はい。これは。パパヤで。御覧の通りもぎたてで。したゝるお乳はまるで蠟涙のやうでございます。はい。このお乳で曾長のひとり娘はお湯を使ふのださうでございます。

はいはい。椰子の実もありますでございます。おさといお方には猿の臭ひが致しますのは致し方がないのでございます。

暑がりのお方さまはこの水瓜の湯槽におつむをおひたしになればよろしうございます。

1 一口で喉のおかわきを癒すお方にはこのよく熟れた柿の実はいかゞでございます。

せう。はい 仰せのとほり 氷嚢につゝんだ生血のやうでございませう。

はいはい御尤もさまで。それではこの生毛のはへた水蜜桃はいかゞでございませう。はい。その青いところが丁度よろしいのでございませう。

ここにネーブルスミカンもございませう。まだチレニヤ海の潮風がついてすつぱいこの凜々しい舌ざわりがよろしいのでございませう。

はいはい。たしかに龍眼もございました。支那風な御容子ではこの方がよろしいので。はいお眼をおつむりになり 舌の上におのせになつて一口に吸ふものなのでございませう。

すべて手前どもの果物は決して皮をむく必要がないのでございませう。

手前どもの果物はお買上げと同時に召し上りにならないと すぐにくさつて了ふのが特徴なのでございませう。

さあさあ 何なりとひとつ

今夜 手前のからだか果物屋をひろげたのでございませう。

さあさあ この磨きのきいた林檎の一顆から買つて頂きたいのでございませう。

さあさあ 冷めたい前歯でかつぷりと はい 腫れもののやうにうづくトマトでございませう。

(※今回の催しでは、一部を抜粋し取り扱います)

底本…「沖縄文学全集 第1巻 詩 国書刊行会

1991年6月6日第1刷